

吹田民主商工会

いんぷおめ〜しよん



吹田市川園町20-1
 TEL (06) 63883-2211
 FAX (06) 63882-8160
<http://www.suita-minsyou.com>
 main@suita-minsyou.com

第54回重税反対全国統一行動吹田集会

3月13日の午前には本町コミュニティセンターで重税反対全国統一行動吹田集会が開催され、民商、生健会、年金者組合、新日本婦人の会、消費税をなくす会の5団体から200名を超える参加がありました。集会は新婦人の大西さんの司会で進行し、主催者を代表して民商会長の塚本さんが挨拶。小規模事業者を廃業に追い込むインボイス制度への反対運動が激変緩和措置の創設など政府を追い詰めていることに確信をもって運動を進めようと呼びかけました。



集会后は「消費税を下げる」「インボイスは中止を」などのシュプレヒコールとともに会場の内本町コミュニティセンターからさくすく広場まで行進。行進には先頭で来賓の石川さん、上垣さんも参加されました。商店街の店主の方から「がんばれ！」などの声援もいただきました。行進後、参加者による吹田税務署へ集団申告を行いました。

青年部主催

青色申告・法人化の学習交流会

3月27日に吹田民商青年部は青色申告・法人化の学習交流会を開催。3名が参加しました。青年部役員会で青色申告や法人化を勧められることがあるけれど、何がいいのか悪いのか分からないという声から学習会を開催することにしました。講師は布施事務局長が行いました。青色申告の専従者給与制度、特別控除、減価償却の特例を解説。青色申告特別控除の解説では「デジタル化は便利でも、そのために元々あった控除が「Yes」条件になるのはおかしい」という声も。法人化の解説では法人設立の手順、法人化による社会保険加入や必ず発生する法人住民税の均等割の負担など解説、節税効果や事業承継、厚生年金加入などのメリットなども学習しました。「ちゃんとわかってからやるのは大事」確かに自分の会社のお金でも使い込んだらダメですね「意外と節税効果は少ないですね」と参加者で交流しました。



住民を追い込む差押えはやめよ

2月20日、民商事務所に市民税納税課から家や給与を差し押さえると言われた方が相談に訪れました。話を聞くと、10年ほど前からの固定資産税が滞納となり、5年前から分納で滞納分と新たに課税される分を並行して支払ってきました。残りがあと7万円弱になってやっと先が見えてきたと思った矢先、納税課から、延滞税が100万円あるの毎月分納額をこれまでの倍の4万円に引き上げるように話がありました。それが「それは無理だ」といったところ、「そうでないと家や給与の差し押さえを考える。」と言われたそうです。早速事務局と一緒に市役所に向かいました。

「3人家族の給与所得者で家のローンを払うと手元に11万円くらいしか残らない。これでどうやって4万円払えというのか」と問うと納税課の職員は「住宅ローンは個人の資産形成になるから以前、返済額を減らしてその分を納税に充てられないかとの話をした」と強硬な姿勢を示しました。「銀行に行つて相談をしたが、返済額の見直しはだめだった」と伝えても差し押さえはしないとはいませんでした。事務局が「延滞税は減免規定がある。適用出来ないか」というと「本税がまだあるので、適用の可否はそれがないからからの対応になる」との事だったので、「本税があと4回ほどで終わる。延滞税の事についてはそれから改めて話し合いを持つことにし、それまでは差し押さえの手続きはしないこと」と求め、とりあえずその方向で話は終えました。

このような差押えなどの強権を背景に納付を迫る徴収はやめ、住民の生活実態をよく聞き取り寄り添う納付相談に改めるべきです。

インボイス制度の相談

パートなのにインボイス?

勤務先からインボイスを取得してほしいと言われて相談したいとパートで働く方から電話がありました。相談者は1日8時間勤務しています。受け取っている日当は給与のつもりでしたが、外注として報酬扱いになっていたようです。そのお店から受け取っているのは少額で、それで消費税を申告するのであれば継続して仕事を続けるか考えるとお話しされていました。

ついに自販機設置でもインボイスの問合せが

自宅前に設置している飲料自販機のC社からインボイス番号を問い合わせる内容の手紙が届いたと会員から相談がありました。回答書は免税事業者であるか課税事業者ならばインボイス番号を記載して返信してほしいとの内容です。この方は過去に消費税課税事業者でしたが、今は免税



になっていきます。どう回答するべきか悩まれていましたが月1万円にも満たず少ない収入のため、免税であることをそのまま伝えて相手方からの返事を待つことにしました。

お買い物は地元市場商店街で・商工業者の繁栄は市民と共々!